

## 令和5年度 事業所自己評価結果の公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

公表：令和6年3月29日 / アンケート期間：令和6年2月5日～令和6年2月20日 / 回答者数（児童数）11名

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ
環境・ 体制整備	1 職員の配置人数や専門性は適切であると感じられますか。	10	1	
	2 日々の活動や支援のためのスペースは十分に確保されていると感じられますか。	6	5	
	3 保育・生活空間は、本人にわかりやすく構造化しているなど子どもたちの活動に合わせた環境になっていますか。	10	1	
	4 保育・生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていますか。	10	1	

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ
適切な 支援の 提供	5 お子さまと保護者さまのニーズや課題が客観的に分析された上で個別支援計画が作成されていますか。	11		
	6 個別支援計画に沿った支援が行われていると感じられますか。	11		
	7 活動プログラムが固定化しないよう工夫されていますか。	9	2	
	8 保育所や幼稚園、他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所等との連携した支援が行われる機会がありますか。	5	5	1

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ
保護者 への 説明等	9 運営規定、利用者負担等について丁寧な説明がなされましたか。	11		
	10 日頃からお子さまの状況を保護者さまと伝え合い、健康面や発達の状況、課題について共通理解ができていますか。	11		
	11 定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われていますか。	10	1	
	12 行事の開催などを通じて保護者同士の交流・連携が支援されていますか。	9	1	1
	13 お子さまや保護者さまとの意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていますか。	10	1	
	14 定期的に活動内容や行事予定、連絡体制等のお知らせ情報が発信されていますか。	11		
15 個人情報の取り扱いに十分注意されていると感じられますか。	11			

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ
非常時 対応	16 防犯対策、感染症予防、非常災害時の対応方法について、保護者さまに周知・説明されていますか。	9	2	
	17 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われていますか。	10	1	

チェック項目		はい	どちらとも いえない	いいえ
満足 度	18 お子さまは通所を楽しみにしていると感じられます	10	1	
	19 事業所の支援に満足していますか。	10	1	

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

## 令和5年度 事業所自己評価結果の公表

## 事業所における自己評価結果および改善内容・改善目標

公表: 令和6年3月29日 / 回答者数(職員数) 3名

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 職員の配置人数は適切である。	2	1		
	2 日々の活動や支援のためのスペースは十分に確保されている。	1	2	・棚やパーテーションを使用してスペース分けをしている。個室の片付けをこまめに行っている。 ・棚やパーテーションで2スペースに区切ってグループ分けし活動など行っています。 ・棚の位置をずらすことで部屋を区切り、活動を2グループに分けて行えるようにしている。	・おもちゃ棚など写真を掲示して整理しやすい環境にしている。 ・スペースの使い方は現在も見直し検討が必要。棚の置く位置や、パーテーションの使いかの工夫が必要だと感じられる。 ・動線が最適なのか日々悩むことはある。トイレ前がお支度の場所であることで、うまく声を掛けあわないとごちゃっとしてしまうことがある。
	3 保育・生活空間は、本人にわかりやすく構造化しているなど子どもたちの活動に合わせた環境になっている。	1	2		
	4 保育・生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。	2	1		
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画できている。	2	1	・振り返りで子ども自身のことや支援のことなど話し合うようにしています。 ・一人一人の役割を明確にしている。振り返りを行うことで事前の話し合い、準備の必要性を感じながら業務に反映させるようにしている。	・個人の業務を行うことに注意が行ってしまい、チームでやるべきことに目がいかないことがある。声を掛け合ってチームでの取り組みに視野を広げていきたい。
	6 職員の資質の向上を行うために、定期的に研修を行なっている。	2	1		

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	7 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画が作成されている。	3			
	8 個別支援計画に沿った支援が行われている。	3			
	9 活動プログラムの立案をチームで行っている。	2	1		
	10 活動プログラムが固定化しないよう工夫している。	3		・活動内容の事前打ち合わせ、事後フィードバックを全員で行い、気付きや反省を次回に活かしている。	
	11 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ活動プログラムや個別支援計画に反映している。	2	1	・どのような支援が必要なのか個別で検討するようにしている。 ・開所して半年以上が経ち遊びの幅も広がった。	日々の支援のあり方について、話し合う時間をもっと増やして、CYS schoolらしい支援のあり方を共有しながら広げていきたい。
	12 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している。	3		活動の設定も色々へ行えるようになり、スタッフと共有しながらどんどん設定も増やしている。	
	13 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している。	3			
	14 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている。	3			
15 定期的にモニタリングを行い、個別支援計画の見直しの必要性を判断している。	3				

関係機関連携	16	地域の母子保健や子ども・子育て支援等の関係機関(区役所等)と連携した支援を行っている。	3		療育センターでの出来事の共有、発達検査を共有し療育に生かしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の福祉協議会などイベント周知や参加をするなどあってもよい。</li> <li>・他の事業所に通ってます、送り迎えにきます等の情報交換はしています。もっとお互いに情報共有ができれば子どもにとってより良い支援に繋がるとはならないので、どのように機会作りをしていくか検討したい。</li> </ul>
	17	移行支援として、保育所や幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	1	2		
	18	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている。	1	2		
	19	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、支援に活かしている。	2	1		

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明等	20	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・細やかなフィードバックができるように記録の備考欄に各自が書き込む。</li> <li>・保護者様の考え方を受け入れながらお子様の情報を提供している。</li> <li>・保護者様から相談があった際、スタッフと共有し検討している。</li> </ul>	保護者様との信頼関係を築きながら支援に取り組むことの重要性を常に感じながら今後対応していきたい。
	21	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、健康面や発達の状況、課題について共通理解ができている。	2	1		
	22	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている。	2	1		
	23	行事の開催などを通じて保護者同士の交流・連携を支援している。	3			
	24	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている。	3			
	25	定期的に活動内容や行事予定、連絡体制等のお知らせ情報を発信している。	3			
	26	個人情報の取扱いに十分注意している。	3			

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
非常時等の対応	27	防犯対策、感染症予防、非常災害時の対応方法について、職員間で共有し、保護者さまに周知・説明している。	3		<ul style="list-style-type: none"> <li>・スタッフ間での共有、研修訓練での気づきを大切にしている。</li> </ul>	契約時から月日が経って忘れていた保護者様もいると考えられる。改めてお伝えしていく必要があるかもしれない。
	28	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている。	3			
	29	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している。	3			
	30	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている。	3			
	31	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している。	1	2		

事業所内での分析	分析結果を踏まえた改善目標の設定
<p>(保護者評価・事業所評価のずれ・共通点の分析)</p> <p>【保護者評価・事業所評価のずれ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スペースが不十分と感じられている回答が多かった。と同時にどのようにスペースを使って療育をしているのかわからないとの回答もあった。</li> <li>・言語や運動療育の専門知識のあるスタッフがほしい。</li> <li>・ヒヤリハット事例集について</li> </ul> <p>【共通点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所や幼稚園、他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所等との連携が足りないと感じられている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HUGで子どもの様子、特に課題点やどうしたら変化が見られたのかということをより細かく伝える。</li> <li>・参観日の開催のほか、HUGで時折どのように活動をしているのか全体が写っている写真を掲載してはどうか。</li> <li>・職員間で共有したことは自分の判断だけで支援方法を変更せずに、全体でどのようにステップアップしていくの支援方法を見出していく。</li> <li>・子どもとスタッフの人数が増えていくことが考えられるため、2つのグループに分けて活動する場合何が最適なのか、都度検討見直ししていく。棚やパーテーションの数が増えるため、より良い環境設定となるよう活用していく。</li> <li>・ヒヤリハットだけを確認できるファイルを用意する。新しい方にも周知しやすいのではないか。</li> <li>・保育園に通うお子様も増えるため、保育園との連携をとっていく。</li> <li>・療育センターを利用しているお子様もいるため、関わりを増やして樹、地域とのつながりを広げていきたい。</li> </ul>